

英語圏で日本の子どもたちに接する。 日本で英語圏の子どもたちに接する。 そのチャンスがどんどん広がっています。



欧米文化学科が提案する未来像です。

欧米文化学科は、21世紀の国際社会で活躍できる人材の育成をめざしています。そのなかで特に力を入れているのは「グローバルな視野を持った子どもを育てていく」ことを目的とした欧米児童文化に関する充実した授業です。幼児教育にグローバルな視点を与えるこれらの仕事は、今、社会から強く要望されています。

欧米児童文化が育てる人材

児童書出版

欧米の児童書に関する知識と、子どもの成長についての知識をあわせ持ち、児童文学や絵本の仕事に従事できる人材を養成します。

児童英語教師

小学校や幼稚園で英語を教える人材が求められています。子どもについての理解と、英語を教える基本的知識をあわせもった人材を育成します

チャイルド minder

イギリスで長い歴史のあるチャイルド minder 資格の学習を通し、イギリスの社会・文化、子どもの養育環境などを学び、幼児教育に携わる人材を養成します。

欧米児童文化プログラム（一例）

欧米児童文化

漫画、TVゲームなど4ジャンルにおいて、日本と欧米との歴史的背景を比較考察します。

英米児童文学

児童文学誕生に至るまでの流れ、ファンタジーとリアリズムの役割、児童文学が抱える諸問題などを学びます。

児童英語教育

2002年度より全国の公立小学校において英会話の学習が可能になりました。児童に英語を教えるための基本的な知識と技術を学びます。

欧米家族文化

欧米諸国の家族文化を理解し、日本との違いや共通点を探っていきます。

ファンタジー論

大ブームを巻き起こした「ハリ・ポッター」。ファンタジーに触れながら、その存在意義について考えます。

国際ボランティア論

「絵本を届ける運動」や貿易ゲームなどの実習をしながら、様々なNGOの活動について学びます。国際問題への自分なりのかかわりかたを考えることもこの科目の狙いです。

チャイルド minder（資格取得）

チャイルド minder とはイギリスで50年以上も歴史のある、国家資格をもった育児のプロフェッショナルのことです。イギリスでは71%の家庭がこの制度を利用し、出産後も働きたいと願う女性にとって、心強いサポーターとなっています。

- イギリスの社会・文化を理解する
- 日本とイギリスの子どもの養育環境を理解する
- イギリスのチャイルド minder を具体的に学ぶ



チャイルド minder 協会の認定証

▶ interview



チャイルド minder の活躍の場が広がっています。

2005年 欧米文化学科卒業
岡春菜さん

入学したころから「児童に関わる仕事がしたい」と思っていたのですが、欧米文化学科での学びとつなげることができずにいました。そんな私が強く将来の仕事を意識するようになったきっかけは、ゼミでグリム童話を英語で学んだことでした。童話の背景にあるヨーロッパの文化や考え方に触れ、それを子ども達にも伝えたいと思うようになったのです。それで在学中にチャイルド minder の資格を取得し、劇団四季のチャイルドルームでアルバイトをしました。実際に働いてみると、毎日新しい発見があり、やりがいのある仕事だと感じました。現在は、児童英語教室を運営している会社で販売から指導まで担当することで、独立開業に向けての準備をしています。

教育ボランティア

2004年6月、上尾市の公立小学校への学習ボランティア派遣がスタートしました。欧米文化学科から公立小学校の英語授業に教育ボランティアとして学生を派遣、また聖学院小学校の英語授業では、4名の学生がティーチング・アシスタントを務めています。

児童英語（J-SHINEの資格取得）

2006年から小学校での英語活動が可能となり小学校の英語を誰が教えるかが課題となっています。J-SHINE(小学校英語指導者認定協議会)は、日本の小学校英語の普及、発展を支援する団体が2003年2月に設立されたNPOです。こうした流れを受けて欧米文化学科では、日本の大学では2番目に資格講座の認定を受け、英語指導者の新たな道を開いています。